



るつ記記念基金だより

基金創設40周年記念特集号

感謝の40年

日立教会が1983年に創設した「るつ記記念基金」は昨年40周年を迎え、11月19日には桜美林中学校・高等学校校長の堂本陽子先生をお迎えして記念礼拝とお祝いの時を持たせていただき、今年2月には5泊6日でフィリピン奨学生訪問交流の旅をも実行することができました。今回の「基金だより」では40年の祝福の豊かさを皆さまにご報告し分かち合いたいと思います。



るつ記記念基金40周年記念礼拝集合写真【2023年11月19日(日)】

感染症対策緩和に伴い、堂本陽子先生、チャイルド・ファンド・ジャパンの大原哲雄部長など、教会外の皆さまにも参加いただき集会を開催させていただきました。

目次

巻頭言

ご挨拶…成田顕靖牧師

40周年記念事業報告

・記念礼拝説教

桜美林中学校・高等学校校長

堂本陽子牧師

・フィリピン訪問交流の旅

幹事長報告…金丸公春

大学集会での成田顕靖牧師ご挨拶

フィリピン訪問を終えて…鈴木大智

大学集会報告…金丸公春

奨学生の現状

奨学生からのメッセージ

・シリマン大学神学生

・ノートルダム・ダジャンガス大学

インフォメーション

編集後記

「行くぞ！」



日立教会訪問団：(左から)若竹永貴、成田顕靖牧師、金丸公春、鈴木大智 (2月20日(火)、成田空港にて)

ご挨拶

日本キリスト教団日立教会 牧師：成田 顕靖



チャイルド・ファンド・ジャパンのフィリピン事務所(マニラ)にて滝田所長(左)に感謝楯(透明アクリルケース付、右頁参照)を贈呈しました。

わたしたちの父なる神と御子イエス・キリストから、恵みと平安とが皆々様の上に豊かにありますように。

私どもの教会のプロジェクトの一つである「るつ記記念基金」は、昨年40周年の節目を迎え、現在41年目の歩みを進めております。長きに亘り、本基金を覚えお祈り下さり、篤き祈りの込められたご献金を賜りましたこと、皆々様に深く感謝と御礼を申し上げます。

昨年は、40周年記念事業として、11月19日に桜美林中学校・高等学校校長の堂本陽子牧師を説教者にお招きして記念礼拝を執り行い、感謝愛餐会で40年の歩みを神への感謝をもって振り返りました。また、2024年2月下旬には委員等4名で現・元奨学生交流のためにフィリピンを訪問致しました。

一連の記念プログラムの中で、日立教会では3ページにありますように、基金創設以来40年間継続してご支援くださいました桜美林中学校・高等学校に対しましては記念礼拝の際に、又、2022年度まで39年間にわたり活動をお支え下さいましたチャイルド・ファンド・ジャパンに対しましては記念礼拝とフィリピンを訪問した際にそれぞれ感謝楯を贈呈させていただきました。

フィリピン訪問の際には、チャイルド・ファンド・ジャパンによる奨学生の卒業生と再会したほか、2022年度より支援を始めたノートルダム・ダジャンガス大学の現奨学生、シリマン大学神学部の教職員及び現奨学生と会う機会が与えられました。

ノートルダム・ダジャンガス大学へは直接支援しておりますが、シリマン大学神学部へは日本聖書神学校のサポートを受けつつ支援しております。シリマン大学神学部の担当者との連絡等の労を担っておられる教務部長代行の荒瀬牧彦先生に深く感謝申し上げます。

2023年から続いている諸物価の高騰により、生活や諸団体の運営が、今まで以上に厳しさを増している状況にあります。特に2024年春以降には急激な円安が重なり、私どもの奨学金プロジェクトにおいてもその影響を大きく受け、米ドルベース(取引している銀行から直接フィリピンペソで国際送金することができないため)で昨年より減少した額を奨学金として送金せざるを得ない状態になりました。そういった厳しい経済環境にある中で、私どもの活動を覚えて多大なるお支えを賜りましたことを深く感謝申し上げます。この状況は今後も続くことが予想されますが、今後とも本基金をお覚え下さり、お支えとお祈りのほど、何卒お願い申し上げます次第でございます。

皆々様の上に、主なる神からの祝福が豊かにありますようお祈り申し上げます。

40周年記念事業の中で感謝楯を贈呈させていただきました。

桜美林中学校・高等学校殿

桜美林学園の皆さまには、基金創設時以来40年にわたり、活動への積極的なご協力や募金活動の継続など、多様な心のこもったご支援、ご激励をいただけてきました。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン殿

基金の創設をご提案くださり、以来39年間、専門的な知見に基づく適切かつ暖かいご指導ご支援をいただき、長期にわたる活動継続を可能としてくださいました。

1989年に日立教会員6名が同法人の前身である東京三鷹にある基督教児童福祉会・国際精神里親運動部（CCWA）を訪問した際には、始めたばかりの活動に寄せられた反響の大きさに戸惑っている私たちに、当時部長の大谷嘉朗先生は「教育は100年の計、あせらず、長い目で見て進めましょう」と基本的な考え方を示してくださり、その後も組織をあげて励まし続けてくださいました。

RUTSUKI FUJISAKI MEMORIAL FUND
(RFMF)
of
HITACHI CHURCH, UNITED CHURCH of CHRIST in JAPAN

Presents this

PLAQUE OF APPRECIATION

to

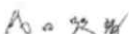
ChildFund Japan Philippine Branch Office


In gratitude to deep understanding on the initiation of the scholarship fund for the students in the various communities in the Philippines, Rutsuki Fujisaki Memorial Fund would like to express our deep appreciation to the variable support and guidance you have provided for successful implementation of the scholarship in past 39 years, since the time of Christian Child Welfare Association.

With the gratitude to God, in the occasion of 40th anniversary of RFMF

Given on this 20th day of February, 2024, Manila, Philippines




 Rev. Akinobu Narita
 Chief Pastor
 Hitachi Church


 Mr. Sunao Wada
 Chairman of RFMF

感謝

桜美林中学校・高等学校 殿

貴殿は「るつ記記念基金」設立当初よりフィリピンの青年への奨学金活動に深いご理解を示され 全校挙げて藤崎るつ記さんの信仰と志を広く伝え 多大なるご支援とご協力を賜りました

皆様の愛あるお働きは当基金の使命実現の力となり 豊かに発展継続することとなりました

ここに 40 年間の永きに亘るご貢献に心から感謝の意を表します

「るつ記記念基金」創設 40 周年に当たり
神への感謝と共に



2023 年 11 月 19 日
 日本キリスト教団 日立教会
 るつ記記念基金委員会
 牧師 成田 顕靖

感謝

特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン 殿

貴法人は 前身の基督教児童福祉会・国際精神里親運動部の時代より「るつ記記念基金」創設に深いご理解を示され 運用にかかわる国際的な活動に多大なるご支援ご指導を賜りました

愛ある忍耐と真摯なお働きは当基金の使命実現の力となり豊かに発展継続することとなりました

ここに 39 年間の永きに亘るご貢献に心から感謝の意を表します

「るつ記記念基金」創設 40 周年に当たり
神への感謝と共に



2023 年 11 月 19 日
 日本キリスト教団 日立教会
 るつ記記念基金委員会
 牧師 成田 顕靖

チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所殿

マニラにある事務所の皆さまには、奨学生の現地窓口として、又、10回以上にも及ぶ教会員の訪問や奨学生の日本招聘等の実務担当として、活動の深化充実にご協力くださいました。

【注】楯外観は左頁写真をご参照ください。

40周年記念事業報告

① 記念礼拝説教

— 2023年11月19日 —

桜美林中学校・高等学校校長
堂本陽子牧師

聖書 マタイによる福音書13章31～32節
ヨハネによる福音書12章24節

説教 天の国の種



みなさま、おはようございます。
本日は大切な藤崎るつ記記念基金40周年記念礼拝にお招きくださり、心から感謝申し上げます。今日こうして、皆さまと出会うことができましたことを、主なる神さまと、るつ記さんと、成田牧師・和田さま始め日立教会の皆さまに、心から感謝申し上げます。

私とるつ記さんとの出会いは、20年前のちょうど今頃の11月の学園チャペルでした。当時の古いチャペルには、学園創立に尽力した人物や精神的影響を与えた人々の写真が大きく飾られていました。創立者清水安三・郁子、安三をキリスト教へ導いたウィリアム・メレル・ヴォーリズ、敬愛する鑑真や新島襄、その並びに、一人の若い笑顔ではほほ笑む女性の写真がありました。黒縁眼鏡をかけ、ゆるいウェーブのかかった知的な眼差し、まっすぐで誠実な印象をうける女性でした。私は「これはどなたですか？」と当時のチャプレンに聞きました。すると、柴チャプレンは、高校の卒業生で「藤崎るつ記」という方であること、フィリピンの貧しい子どもたちのために働きたいと願うフィリピン大学で学んでいたが、海でおぼれた友人を助けたものの自分の命を失った女性であったことを聞きました。私は深い感動を覚えました。こんなに若い女性、しかも桜美林の卒業生がいるのだと。

本校の礼拝ではキリスト教会と同じ礼拝形式もっています。献金も聖歌隊もあります。たいへん珍しい。桜美林はずっと礼拝献金をるつ記記念基金へお送りさせていただいていました。学園において、るつ記さんのこと、そして記念基金のことは、大切な当然の当たり前のことでした。でも、私は彼女をもっと生徒に知ってもらいたいし、大切にしなければならぬと思いました。

私たちは献金を送る団体を心にとめながら祈り

と献金をささげることを大切に考え、生徒たちは必ず献金団体先の名前を挙げて祈りをささげております。献金の祈りのたびに、るつ記記念基金の名前を挙げております。

私は、必ず新入生には礼拝でるつ記さんのことを話します。中1では授業1コマ使って紹介し、彼女の信仰と生き方に学ぶようにしてまいりました。その時に用いる聖書箇所が本日の聖書箇所です。

「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」

(ヨハネ福音書12章24節)

私が高校礼拝でるつ記さんのお話をした時の生徒の礼拝ノートの感想を紹介します。

～～生徒の礼拝ノートから～～

*桜美林の卒業生がフィリピンの人々のために学び貧しい子供たちのために働きたいとフィリピンで多くの友人に囲まれて楽しそうだと思いがら聞いていました。が、おぼれた友人を助けて亡くなったという言葉が出てきたときには、驚きました。しかし、同時に夢を持ち、弱い人のために自分の人生をつかむ志をもって生きていくすばらしさを知りました。わたしは将来子どもたちのために生きていきたいです。・・・大学受験を機に自分の将来について深く考え本当にやりたいことが見つかりました。やはり一生モノの仕事をするには誰かの役に立ったり助けたりすることができれば自分がやりがいを感じられるからです。

*誰かのために死ぬというよりも、誰かのために自分の限りある人生や命を、他人を思って尽くすということが重要なのだと気づいた。これは緊急時のことではなく、普段から意識しなければいけないことで、それがやさしさなのだと思います。

るつ記さんは最後まで誰かのために命を使い続けたのだと思う。私は自分の命を失ってまで人の命を助けられるかどうかはわからないけど、るつ記さんがそう選択したように、自分がどう生きるかによって、きっとその選択は変わるのだろうと思う。

～～～

私は30周年記念礼拝に、当時の高校教頭藤崎堅信と共に参加させていただきました。その折、るつ記さんのお父様である藤崎牧師がご挨拶されたときの言葉が印象的でした。それは、「私には100人の娘息子ができた。神の恵みに感謝」という言葉でした。るつ記さんの死から始まった奨学生たちが、ちょうど100人を超えていることを感謝するものでした。我が娘を愛する親の思いはいつまでも癒えがたい悲しみであると思います。その悲しみを超えて神の恵みを数えて感謝する信仰の姿を語りました。

～～生徒の礼拝ノートから～～

*お父さんの考え方は心を動かされるものがあった。自分の悲しみのなかに、それ以上の幸せを見出し感謝することのできる信仰は素晴らしいと思う。私はこのキリスト教特有の悲しみを超えた先にある幸せに感謝する考え方は多くの人も見習うべき考え方だと思う。人のために自分の時間や能力を使う。これは人間における究極の良い生き方だと思う。何を善とするかは人それぞれだけれども、私は自分のために使う時間と同じくらいに他者に時間を使いたい。

このように、生徒たちは、るつ記さんがイエスの愛を受け、イエスのみ言葉に生きられた姿を知り、その生き方を学び、イエスの御言葉に生きるとはどういうことかを学んでいます。るつ記さんの志と証は、今もなお生徒たちのなかに生き続け、生徒たちを励まし、導いてくれています。

現在、奨学生の方々が皆様の活動によって、146名になったと伺っております。藤崎牧師の146名の娘息子だけでなく、桜美林学園にも、小さな小さなるつ記さんの兄弟もまた桜美林で生まれていると思っていますし、これからも生まれてくるだろうと期待しています。

40周年の歩みは、日立教会の皆さまのるつ記さんへの愛、神さまへの信仰と感謝、そして、奨学生との温かい交わりのなかで歩まれてきたことでしょう。

神さまは、小さな一粒の麦の中に、大いなる命と豊かな平和と未来の希望を、「天の国」の未知なる可能性を秘めておられるのだと改めて感謝するものです。まさに、からしだねが、ほんのゴマ粒よりも小さな存在でありながらも、空の鳥を憩わせる平和の大きな木になるように。

「一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままである。しかし死ねば大きな実を結ぶ。」

私たち人間は、自分という一粒の麦にこだわり続けてしまう。それは自分を愛するエゴ、原罪のゆえです。世界の争いを見れば、それぞれが自国ファースト、自分の正義、自己主張だけを通し、他者の声や意見を聞こうとしない姿があります。一つの狭い自分たちだけの空間や社会という「バブル」の中だけの小さなコミュニティに閉じこもって正義を訴え他者を排除し裁いているように思えます。しかし、るつ記さんの生き方、イエスの御言葉に聞き従った生き方は、自分を開いて他者のために自分を投げ出す「イエスの愛に生きる」ものでした。

高校生が学ぶ現代評論文の中には、「人間というものは、他者のために死ぬことなどできない」という言葉がでてくるそうです。確かに、人間は他者のために死ぬことはできないほど、自己愛にある存在だと言える。徹底的に、他者を愛するがために、しかも罪あるもの、自らを排除する者、自らを憎むものを、なお愛すがために、自らの死を選び決意し覚悟し実行できたのは、イエス・キリストただお一人なのです。その十字架に、私たちは徹底的な愛、無条件の犠牲愛を見ることができます。だからこそ、まさに神の愛が十字架に表れているのです。

私たちは他者のために死ぬことができない存在かもしれない。しかし同時に、私たちは、「他者のために生きる」ことができる存在なのです。キング牧師であれ、自ら死んでやろうと思っていたわけではなく、死の恐怖にかられながらも、他者を愛する生き方を貫いた時、イエスの愛と教え、イエスの祝福と希望に生きぬいた愛の結果、死すことになりました。が、神はそのような徹底的に愛に生きた命を決して見捨ておかれぬ。必ず、その命から多くの他者を愛し平和を実現する人々を生かし、多くの天の国を広げたこともまた確かなのです。

るつ記さんはまさに、天の国を広げた一粒の麦なのです。私たちもまた、イエスの愛を受け、イエスの十字架のゆるしに生かされて、他者を愛するものとして生きていきたい。欠けや弱さがあり、限界のある罪ある私たちであるけれども、ここにもイエスの十字架の愛と赦しが注がれ、新たな命に生かされている恵みに、喜んで歩いていこう。どんなに小さな愛の業にも、神は天の国のタネとして祝福し、命を芽生えさせ、豊かな実りを与えてくださることを信じていこう。私たちの小さな愛と、イエスへの信仰から導かれる小さな働きを通じて、「天の国を、神さまが広げてくださる」ことを信じ、感謝と希望をもって歩いてまいりましょう。

アーメン。

② フィリピン訪問交流の旅

幹事長報告

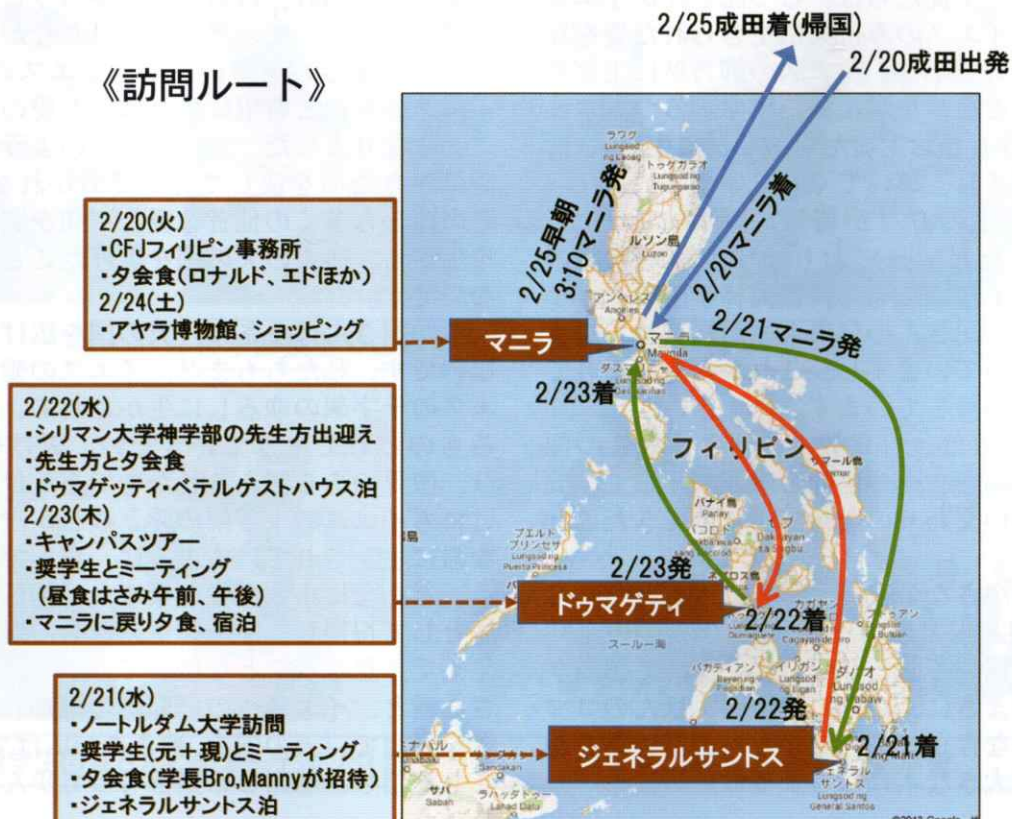
日立教会役員 金丸公春

1. 訪問日程：2024年2月20日(火)～2月25日(日)
2. 参加者：成田顕靖牧師、鈴木大智(大学生)、若竹永貴(大学生)、金丸公春、松浦宏二氏(チャイルド・ファンド・ジャパン理事、フィリピン内同行)
3. 訪問の旅 全体スケジュール ↓ フィリピン国内時刻は日本時刻マイナス1時間(時差)

日程	発着地	時刻	便名	行事	備考
2024/2/20(火)	発Narita(NRT) 着Manila(MNL)	09:30 13:45	フィリピン航空 PR431	・CFJ訪問、感謝楯贈呈 ・夕会食	マニラ泊
2024/2/21(水)	発Manila(MNL) 着General Santos(GES)	06:05 08:05	フィリピン航空 PR453	・NDDU訪問 ・am/pm奨学生と面談 ・学長招待の夕会食	ジェネラルサントス泊
2024/2/22(木)	発General Santos(GES) 着Manila(MNL) 発Manila(MNL) 着Dumaguete(DGT)	09:00 10:50 13:30 15:00	フィリピン航空 PR454 PR2543	マニラ経由SUDSへ ・SUDS先生方出迎え ・神学部長他と夕会食	ドゥマゲティ泊
2024/2/23(金)	発Dumaguete(DGT) 着Manila(MNL)	16:30 18:00	フィリピン航空 PR2544	・キャンパスツアー ・am/pm奨学生と面談	マニラ泊
2024/2/24(土)	当初の便がキャンセルとなり帰国できず			・アヤラ博物館 ・ショッピングモール、反省会	ロビー仮眠
2024/2/25(日)	発Manila(MNL) 着Narita(NRT)	03:10 08:30	フィリピン航空 PR5432	・深夜便で帰国	

(注) CFJ：チャイルドファンド・フィリピン事務所、NDDU：ノートルダム・ダジャンガス大学、SUDS：シリマン大学神学部

《訪問ルート》



大学集会での成田顕靖牧師のご挨拶



(ノートルダム・ダジャンガス大学にて)



(シリマン大学にて)

ノートルダム・ダジャンガス大学およびシリマン大学での集会冒頭ご挨拶全文

I would like to thank you all for the opportunity to meet with you today.

My name is Akinobu Narita, pastor of Hitachi Church, United Church of Christ in Japan.

I took up this post in April last year, replacing Rev. Susumu Shimada and Rev. Nobuko Shimada.

I am 44 years old and was born in Sapporo, Hokkaido.

Well, I am very happy to be able to support your studies through the fund program, RFMF run by our church.

At the same time, I am very much thankful to the staff members for their help to continue this program.

Also, there is something we must say to you.

That is, "Thank you for accepting our ministry."

80 years ago, during World War II, our country, Japan, committed a very serious crime by abusing and killing the Filipino people.

We, the later generations, have also inherited this guilt.

For the people of the Philippines, the memories of that war still remain.

Nevertheless, we are deeply grateful to you for accepting our ministry.

I pray that your study and life will continue to be supported.

The blessings of God Almighty, the Father, and of the Son, and of the Holy Spirit, be upon you today and always.

Amen.

【日本語訳】

本日は、皆様とお会いできましたことを感謝申し上げます。

私は、日本キリスト教団日立教会牧師の成田顕靖と申します。

昨年4月に島田進牧師と島田信子牧師の後任として赴任しました。

年齢は44歳で、北海道札幌市で生まれました。

さて、私達の教会で行っている基金プログラムによって、皆さんの勉学をお支えすることができていることを、とてもうれしく思っています。

同時に、私達のプログラムを助けてくださっている関係のスタッフの皆様には感謝しています。

また、私達は皆さんに一つ申し上げておかなければならない言葉があります。

それは、「私達の奉仕を受け入れて下さってありがとうございます」です。

今から80年前、第二次世界大戦の時、私達の国である日本は、フィリピンの人々を虐待し殺すという、大変大きな罪を犯しました。

後の世代である私達も、この罪責を受け継いでいます。

フィリピンの皆さんにおいては、あの戦争の記憶は今も薄れていないことでしょう。

それにもかかわらず、私達の奉仕を受け入れて下さったことを深く感謝申し上げます。

皆さんの勉学と生活が、これからも支えられますようお祈りします。

皆様の上に、父と子と聖霊の御名の全能の神の祝福がありますように、今もそしてとこしえに。
アーメン。

1. はじめに

2024年の2月20日から25日までの間、私は、るつ記記念基金委員会のフィリピン訪問計画に参加し、成田顕靖牧師、金丸公春兄、大学生の若竹永貴兄と共にフィリピンのマニラ、ジェネラルサントス、ドゥマゲッティを訪れました。私にとっては、ほぼ初めてとなる海外訪問ということもあり、フィリピンは初めて見聞するもので溢れていました。日本とは異なる現地の様子や人々の振る舞いに、時として混乱することもありつつ、フィリピンの様々な場所を訪問する中で、るつ記記念基金のことも含めて私なりに思考することも多くありました。そこで、本稿では、主要な訪問先での交わりの様子や、フィリピン訪問を終えた私の所感を記して、ご報告します。

2. 訪問報告

(1) チャイルド・ファンド・ジャパン現地事務所(メトロ・マニラ、マカティ市)

フィリピンの首都マニラに所在するニノイ・アキノ空港から、チャイルド・ファンド・ジャパンの松浦宏二理事と合流して車に乗り込み、マカティ市へと向かいました。途路には砂埃が舞い、軒を連ねる質素なバラックの前を半袖のタンクトップを着た少年が、自転車を三角乗りして通り過ぎていきました。そのような光景を目の当たりにしつつ道を行けば、やがて高層ビル群が立ち並び、マカティ市は、まさしく近代都市の様相を呈していました。



感謝楯を所長に

さて、マカティ市のホテルに到着して身支度を整えた後、ホテルの徒歩圏内に存在するチャイルド・ファンド・ジャパンのフィリピン事務所を訪問しました。時間は夕刻に近く、事務所の方々も退勤を始めようとしていた頃でしたが、皆さまと交わりの時間を持つことができました。現地スタッフの方々からは、フィリピンの貧富の差が拡大している現状やチャイルド・ファンド・ジャパンの近頃の取り組みなどをご説明いただきました。我々からは、英語で記した40周年記念の感謝楯を贈呈しました。

(2) ノートルダム・ダジャンガス大学(南コタバト州、ジェネラルサントス市)

ノートルダム・ダジャンガス大学は、首都マニラからフライトで約2時間のジェネラルサントス市に所在しています。訪問した21日は、大学内の一室で、大学の職員、奨学生の方々とのウェルカムセレモニーを行い、奨学生の方々から近況の発表が行われました。この際、奨学生の方々は、パワーポイントや自作の動画を用いて発表を行っていました。また、なかには日本語で自己紹介をする方もいました。つまりは、忙しい勉強の合間を縫って事前に入念な準備をされて、そのことが伝わる素敵な発表でした。一連の交流を終えた後には、構内の一室で奨学生の方々と昼食の交わりを共にしたり、奨学生の方に構内の施設を案内していただいたりしました。この日は、日差しの照りつける暑い夏日で、加えて早朝3時から移動により疲弊していた一行でしたが、明るく熱意ある奨学生の皆さまとの交わりの中で、我々も活力を貰いました。21日の夜は、大学学長をはじめとした職員の方々の手配して下さったホテルにて夕食の時間を共に過ごしました。ジェネラルサントスはマグロ漁が盛んに行われており、今回の食事にもマグロのお刺身が振舞われました。



奨学生の発表



学長がご招待の夕食会

(3) シリマン大学(東ネグロス州、ドゥマゲッティ市)

シリマン大学は、首都マニラから航路で約1時間のドゥマゲッティ市に所在しています。るつ記記念基金では、2006年から日本聖書神学校を通じて同大学神学部の特学生を支援しています。さて、我々が訪問した際には、平日ということもあり、多くの学生が構内を歩いていました。まず、大学構内の礼拝堂に案内していただき、堂内を見学して、記念撮影を行いました。この礼拝堂で、毎週水曜日に礼拝を行っているとのことでした。その後、大学内の学部長室にて、歓迎のご挨拶を受け、我々の方からも成田牧師のご紹介や島田前牧師について説明を行いました。この後に、我々はお夕食をフィリピン料理レストラン (Resto Café laguna/Lab) にて、シリマン大学の方々といただきました。

23日には、朝の9時から大学構内の施設をキャンパスツアーアンバサダーの方に案内していただきました。シリマン大学は、総合大学であるため、情報科学系の学生が利用するコンピューター教室など様々な学科の施設が存在していました。当日はあいにくの雨天ではありましたが、広大なシリマン大学の敷地内を歩きながら、大学の様子を耳目に触れて知ることができました。その後、構内にある事務室にて特学生の方々と食事を共にして、交わりの時間を持つことができました。その際には、特学生の方から熱意に満ちた自己紹介をいただき、我々の訪問に対して熱烈な歓迎をしてくださいました。



神学部長他先生方との夕食会



大学神学部礼拝堂で



奨学生と神学部の皆さまと

3. 最後に

ここまで、私がフィリピンを訪れた際の現地の様子や私の所感をまとめました。約1週間のフィリピン訪問を通して、るつ記記念基金を40年間続けてきた意義のようなものを感じ取ることができたと考えています。当初は私がフィリピンに行くことに何の意味があるのだろうと疑問を抱くこともありました。しかし、現地へ赴き、特学生の方々や様々な場所で活躍されている元特学生の方々の様子を見ると、フィリピンの人々にとって奨学金が確かな支えとなっていることを実感するとともに、現在の関係を続く未来にも残したいと考えるようになりました。

最後に、このフィリピン訪問計画を無事に終わらせることができるようにご尽力くださった、成田顕靖牧師や金丸公春兄をはじめとした日立教会の教会員の方々、るつ記記念基金の支援者の皆さま、現地で大変お世話になったチャイルド・ファンド・ジャパンの松浦宏二様や、各訪問先の関係者の方々に対して深く感謝をしつつ、筆を擱くこととします。ありがとうございました。



マニラ市日本食屋で反省会

ノートルダム・ダジャンガス大学

2024年2月21日

ミンダナオ島ジェナラルサントスにある総合大学で、るつ記記念基金と同大学との奨学金支援方法を直接に締結し、2022年より5名の奨学生が与えられました。このたび、るつ記記念基金創設40周年を記念して大学関係者および奨学生の皆さんと交流の機会を得ましたので報告します。



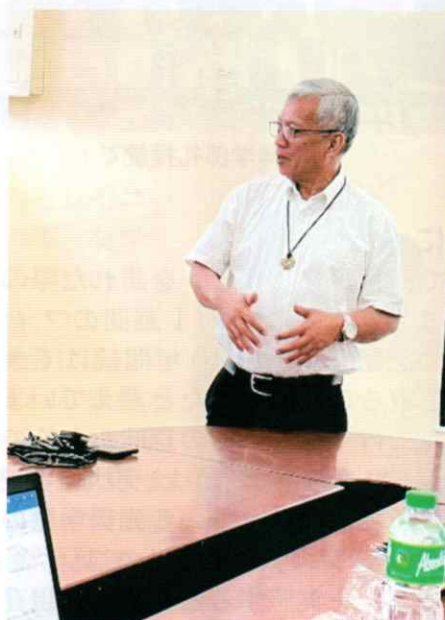
ノートルダム・ダジャンガス大学
(NDDU)
〔カトリック・マリスト会の総合大学〕



大学の会議室での交流会場の様子
〔現奨学生と共に近隣の元奨学生の
方々も出席していただきました〕



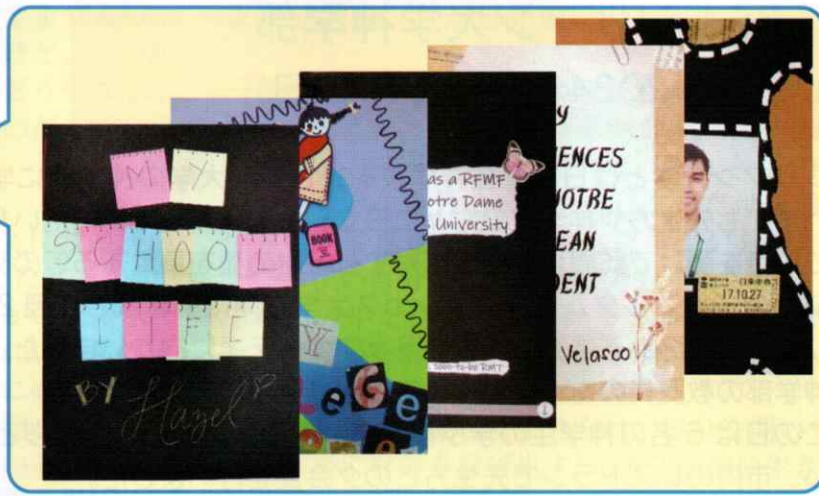
成田顕靖牧師の自己紹介と挨拶
〔挨拶の内容は7ページに記載しています〕



学長のご挨拶
〔ノートルダム・ダジャンガス大学の
学長にもご出席いただきました〕



大学の担当者アルヴィンさんの司会で
各奨学生からの学校生活の状況報告



奨学生の皆さんがご自分の大学生活の様子を
まとめた手作りのアルバムを頂戴しました



マリソーレさんの報告
(医療技術専攻)



ジョンさんの報告
(生物科学専攻)



アシュリーさんの報告
(初等教育学専攻)



奨学生の皆さんがキャンパス
内を案内してくれました



奨学生4人と訪問した鈴木君と若竹君
大学生同士の交流

シリマン大学神学部

— 2024年2月22～23日 —

シリマン大学とは日本聖書神学校を通じて同大学の神学部学ぶ奨学生を2006年から支援し、これまでも先生方や神学生の方々に日立教会を訪問していただいたり、2013年には毎年開催の会議にご招待を受けて訪問し、支援に対する感謝の楯を頂戴する等の交流をおこなっています。

前日のノートルダム・ダジャンガス大学訪問に引き続き、翌2月22日朝から空路マニラ経由でシリマン大学のあるネグロス島のドウマゲッティに向かいました。夕刻に到着、空港にはシリマン大学神学部の教職員の方々が出迎えてくださいました。

この日は6名の神学生の学ぶ神学部の学部長を訪問・ご挨拶と翌日のスケジュール等の打合せを行い、市内のレストランで先生方との夕会食を行いました。

翌日の23日には「キャンパスツアー・アンバサダー」の学生の案内で大学構内の施設を見学したのち、昼食をはさんで現奨学生と先生方との交流を行いました。



ドウマゲッティ空港に到着



シリマン大学



神学部長室でご挨拶と打ち合わせ



神学部長他の先生方との夕会食



奨学生の皆さんとのミーティング



奨学生の皆さんとの記念写真

奨学生の現状(心こめて皆さんを応援します)

* 支援する奨学生は10月現在11名で、合計160万円の奨学金を贈呈しました。多くの皆さまの温かいご支援で、基金創設以来41年にわたり、累計150名を支援し奨学金累計は3554万円に達しました。

* 奨学生の内訳は、ネグロス島のドゥマゲッテイ市にあるシリマン大学神学生6名、ミンダナオ島ジェネラルサントス市にあるノートルダム・ダジャンガス大学の5名です。

* 今年度奨学生11名を以下に紹介します。

島別奨学生分布

(): 2024年10月までの累計人員、合計150人。



【凡例】

採用年度

名前(専攻)

2024年度



ジェニフェ(神学)



ケセド(神学)



ジョニー(神学)



ジェイムス(神学)

新奨学生です。パナイ島、サマル島、ミンダナオ島(2名)等の出身。(14頁参照)

2022年度



ジョン(生物科学)



マリソレ(医療技術)



ヘイゼル(医療技術)



アシュリー(初等教育学)

2023年度



ジゼル(体育学)

2021年度



アビゲイル(神学)



ジェフリー(神学)



◎お陰様で卒業いたしました。

2019年度奨学生のジェリーが卒業しミンダナオ島のフィリピン合同教会(UCCP)牧師として赴任しました。皆さまの暖かいサポートに対しまして心からの感謝のメッセージをいただいています。(14頁参照)

奨学生からのメッセージ

① シリマン大学神学生（卒業感謝&入学感謝）

ジェリーから「卒業しました！」

私はシリマン大学神学部在学中に頂戴した日立教会の奨学基金「るつ記記念基金(RFMF)」の貴いご支援に心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと思い、この手紙を書いています。皆様のご支援は私の神学部での学びの大きな支えとなり、この度修士課程を高評価を得て修了することができました。



シリマン大学神学部の3年次から途中1年間のインターンシップを含めて4年間にわたる奨学金のおかげで、私は神学部での学びと専門教育訓練に集中して全力で取り組むことができました。大学での厳しい授業に没頭することができ、貴重な現場での業務や牧会活動にも関わることができました。また神学部の活気に満ちたコミュニティ活動にも参加することができました。このような総合的な教育経験を通して、教会や地域に奉仕するうえでの知識、技能、および精神的な基盤を身に付けることができました。

皆様のご支援は、単に私の勉学を支えるだけに留まらず、牧師を志す私の召命観を一層確かなものにし、その確信を益々強化してくれました。皆様の奨学生として選ばれたことを誇りに思います。また、次の世代の宗教指導者育成を支援するお働きに深く感謝いたします。

これから私は、UCCP(フィリピン合同教会)のミンダナオ島サンボアング・デル・ノルテ州ミュー

シャの責任牧師として、人生の旅の次章に乗り出します、シリマン大学神学部在学中に学んだことや経験を携えて！

私は、私がこれまで培ってきた神学的な知識と牧会的スキルを実践して、誠実で信頼される聖職者であるよう努めて歩む所存です。さらに、私は今後、神様の召しを志す後進の方々を支援することによって、皆様が私にくださったご恩に報いたいと願っています。

私の教育・育成を支えてくださったことに、改めて感謝致します。本当に頭が下がる思いですし、皆様の奨学生になれたことを光栄に思っています。神様がこれからも、この私を教会と世界のためにどのように用いてくださるのかを見るのが楽しみです。

今後も、助けが必要な人々が学業を終えることができるように、主が皆様のお働きを用いて祝福して下さいますように。

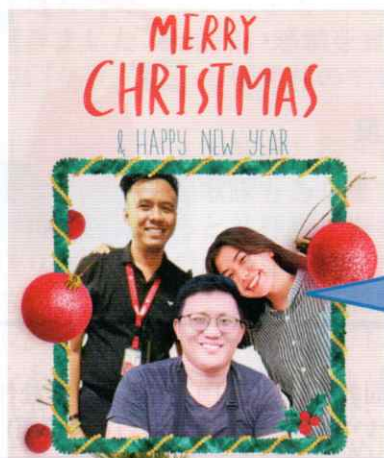
心を込めて

2024年6月10日 ジェリー



ミンダナオ島サンボアング・デル・ノルテ州
ミューシャの責任牧師就任式

新奨学生から「メリークリスマス！」



こんにちは！神学校のケセドです。私は今年度奨学金を授与された幸運な学生の一人です。私とジェイムスとジョニー、奨学生全員から、心からのクリスマスのご挨拶として、このビデオ(別送)とカードをお贈りし感謝の気持ちを伝えたいと思います。

どうもありがとうございます。神のお恵みがありますように！

2023年 クリスマス

② ノートルダム・ダジャンガス大学 (年次報告)

2022年度から支援を始めた5名の奨学生から、今年はお覧のような様式で全57ページに及ぶ報告を電子情報でいただきました。大学の良好な指導と教育環境の中で、活発かつ充実したキャンパスライフの様子が見てとれるとともに、技術と精神性の両面で真摯に成長する姿にも感動いたします。紙面の関係でごく一部の紹介とさせていただきます。

①ご挨拶(5名共通)

Dearest Sponsors,

As another year of our educational journey has come to an end, we want to send our deepest appreciation and gratitude for your help for us to make things possible. Your kind gesture opened up a new path closer to our dreams. May your genuine care and kindness be rewarded with such great blessings and opportunities. May these collective memories help you visualize how great of a help you've become to us. Thank you very much!

私たちの教育の旅ももう1年で終わりを迎えますが、これを可能にするために皆様のご協力をいただき、深く感謝の意を表したいと思います。あなたの親切な行動が私たちの夢に近づく新たな道を切り開きました。あなたの真の気遣いと優しさが、このような素晴らしい祝福と機会によって報われますように。これらの集合的な思い出が、あなたが私たちにとってどれほど大きな助けになったかを視覚化するのに役立ちますように。どうもありがとうございます！


日本語訳もいただきました

②報告(以下ではマリソーレの頁のみ抜粋)

Name: Marisolle

Course: Bachelor of Science in Medical Technology

Grade Status: Second year going Third year




医療技術専攻の3年生

③実験室

Laboratory Activities


These photos showing my involvement in laboratory activities are probably few of the most memorable college experiences I have had as it made realize how critical is a medical technologist's role in saving lives.



④集団献血

Mass Blood Donation

Another memorable moment I was able to cherish during my college journey was attending mass blood donation with my beloved classmates.



⑤チーム形成

Team building Activity

This is also a worth to remember experience in my college journey. This was my first time filing a candidacy to be the secretary of our department - the NDDU's Philippine Society of Medical Technology Students. Thankfully, I was able to become a part of this wonderful family.



⑥新学期の目標

What I look forward this semester

第1に神への信仰を...

第2にRFMFの皆さまとの強いきずなを、そして「私は自分のベストを尽くします！」

As the new semester is fast approaching, there are only few things that I am looking forward and hoping to achieve. First is the state of having more strengthened faith in Him. A lot has happened lately and all of them made me doubt whether or not I can still continue to face everything and rise. Hopefully, in the next semester, I will be more reminded with His presence, that there is more to life than feeling entirely the insecurities and injustices.

The second thing I am anticipating for the next school year is to have a stouter rapport with you, honored RFMF. I cannot wait to show you the professionals you are helping to build as of the moment. Lastly, I look forward to self-improvement. This will be the kind of improvement that does not just show off how one's mentality evolves over time, but also the spirituality, the emotional aspect, and everything on the holistic side. Thank you so much, RFMF and Hitachi Church! 私は自分のベストを尽くします!

インフォメーション

茨城キリスト教学園中学校文化祭へ 20回目の出展

2002年以来毎年参加させていただいていた文化祭への出展が、コロナ感染症対策として中止となったため2020年、2021年の2年間中断していました。しかし、2022年から文化祭が再開され、昨年11月3日には、以前と同様に学園側のご配慮をいただき20回目の出展をさせていただきました。今回も、中学校や学園関係者をはじめ100名以上のご来場を賜り感謝いたしました。



パネル等による解説



細川総長（右から2番目）
にもご来場賜り懇談。
（左端は成田牧師）

編集後記

☆奨学生がそれぞれの場所でフィリピン社会のためあるいは次の世代の若者のために働き続けている姿、40年のなかで、世代を受け継いでいく広がりとなったことをお伝えします。皆様の支援のおかげでこのように実を結ぶことができました。これまでのご支援に感謝申し上げます。（書記：青野友祐）

☆基金40年の歩みの後半から委員会に加わっております。奨学金運用だけではなく、Anneさんとの5年間の交流、東日本大震災の夏のフィリピン訪問、シリアン大学からの招待、Rheaさんの招聘などの数々の行事があり、そこにはいつも奨学生の皆さんの笑顔が溢れていました。感謝と共に思い起こし、神様の祝福の重みに圧倒される思いです。（大内田春子）

☆2024年2月のフィリピン訪問交流の旅に参加させて頂きました。当基金の当初からお世話になったCFJフィリピン事務所への感謝を直接お伝えし、支援先の各大学を訪問して交流することができました。旅程はきつかったですが、奨学生の皆さんの様子や思いを直に聞くことができ恵まれた旅でした。今後も奨学生の成長をお伝えしたいと思います。

（ICT担当：金丸公春）

☆40年という長い期間に亘りRFMFが存続していることには驚きを隠せません。私がこの委員会に関わり始めてから2年ほどが経過し、フィリピンへの訪問も行いましたが、様々な方のご厚意により40年の歴史が紡がれてきたことを実感するばかりです。この年月に思いを馳せつつ、これからのRFMFへの関わり方を考えたいと思います。（副委員長：鈴木大智）

☆基金創設以来、皆様から頂いた献金は6,300万円を超え、延べ人数にすると、7,200人を超える方々からの支援を受けてきたこととなります。41年の長きにわたって、るつ記記念基金をお支え頂いてフィリピンの学生達に奨学金をお送り出来たことは、本当に感謝しかありませんし、「たった一人の奨学生だけでも」と始まった基金が150名の奨学生を支援出来まし

たことは、奇跡としか言いようがありません。基金の働きの一端を担える事ができ、感謝です。

（会計：菅原卓子）

☆RFMF奨学生の誕生カードを作りEMS（国際スピード郵便）で送る役を妻と一緒に担当しています。この企画は20年以前に麦の会（女性会）から提案され、「奨学生を覚えて祈る」という教会の大事なメッセージになっています。カードには奨学生の名前、牧師の選ばれた聖句、教会員皆様のサイン、クリスマスまたはイースターの時の記念集合写真を載せてあります。奨学生から近況報告の手紙やメールが届いたりすると、私達も感謝し、うれしくて励まされます。（百瀬義広）

☆私は、40周年記念フィリピン訪問交流の旅に撮影・映像担当として同行させていただきました。今回の訪問でフィリピンの方々とのコミュニケーションを経て私にとって今後大学やその先、就職後も英語の勉強を続けていきたいと感じ、大学生の経験の中での大きな1ページとなりました。貴重な機会をくださった日立教会の皆さんと神様に心から感謝いたします。

（若竹永貴）

☆「私たちは日本人に対してよくない感情を持っている。私たちは歴史から自由になれないが、新しい世代はもっと新しい関係をうちたてるべきだ!」。40年前、るっちゃんのマニラでの告別式における神学校学長の率直なメッセージでした。組織や前例にとらわれない多くの人々の創造的な発想と行動により創設され、未熟ながらよちよち続けられた「感謝の40年」。今、多くの友がフィリピンにいます。（委員長：和田 直）

るつ記記念基金だより 第40号

2024年11月17日発行

編集：るつ記記念基金委員会
発行：日本キリスト教団日立教会

〒317-0064 茨城県日立市神峰町4-14-7
URL <http://hitachi-church.justhpbs.jp>
TEL 0294-21-4565 FAX 0294-23-3367
郵便振替 口座番号/00300-9-15365
日本キリスト教団日立教会るつ記記念基金